

## 平成 27 年度 日本獣医師会獣医学術賞の受賞者及び受賞研究業績

本年度の日本獣医師会獣医学術賞の選考は、「獣医学術奨励賞」は日本獣医師会雑誌の平成 25 年 8 月号（第 66 巻第 8 号）から平成 27 年 7 月号（第 68 巻第 7 号）に掲載された原著・短報を対象に、「獣医学術学会賞」は獣医学術学会年次大会（秋田）において発表された地区学会会長賞の中から、「獣医学術功労賞」は推薦のあった永年の功労の業績の中から、選考委員会において厳正に審査され、平成 27 年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会（秋田）における授与式において、本会蔵内会長から本賞（賞状）が、協賛会社（日本全薬工業㈱、共立製薬㈱、日本ハム㈱）から副賞（研究奨励金 20 万円（目録））がそれぞれ受賞者に授与された。

表彰された受賞者及び研究業績の一覧は次のとおり。

### 平成 27 年度 日本獣医師会獣医学術賞受賞業績

#### 【産業動物部門】

##### 獣医学術奨励賞：

「北海道における牛マイコプラズマ性乳房炎の発生とその疫学的考察」

草場信之（北海道農業共済組合連合会），他  
 〈選考理由〉 マイコプラズマ感染による牛乳房炎が増加傾向にあり，その対策が急務となっているが，疫学や病態については不明な点が多い．本研究は，過去 22 年間に対処した牛マイコプラズマ性乳房炎の発生事例 68 牛群について，回顧的にそのデータを解析し，疫学的考察を加えた研究である．長年にわたる多くのデータが的確に整理され，学術的価値も高く，得られた知見は，家畜衛生分野においても利用・普及が可能であることから，獣医学術奨励賞として推薦する。

##### 獣医学術学会賞：

「大腸菌群による甚急性乳房炎に対する乳房内冷却並びに抗菌性物質・消炎鎮痛剤の乳房内局所投与療法の検討」

佐々木恒弥（いわて総合動物病院），他  
 〈選考理由〉 乳牛の大腸菌群による甚急性乳房炎は，重篤な症状を呈し，罹患乳房の泌乳停止などによる経済的損失が大きな疾病であり，従来から本症の病態や診断治療に関する研究が行われてきたが，有効な予防及び治療方法は確立されていない．本研究は，抗菌性物質や消炎鎮痛剤の乳房内投与に加えて，5℃に冷却した生理食塩水 1l を注入した結果，治療効果がきわめて高いことを明らかにした．生理食塩水の温度や量についての追加検討が必要であるが，甚急性乳房炎の治療率向上と泌乳能力回復に乳房内冷却の併用が有効であることを示しており，産業動物臨床に大いに貢献する内容であることから，獣医学術学会賞にふさわしい研究として推薦する。

##### 獣医学術功労賞：

「家畜の繁殖効率向上に関する応用的研究」

中尾敏彦（山口大学・元教授）

〈選考理由〉 家畜の繁殖効率低下の原因解明と診断・治療技術の向上は，産業動物獣医療における重要な課題である．中尾敏彦氏の取り組んだホルモン測定技術導入による各種生殖機能障害の診断など，長年にわたる家畜の繁殖効率向上に関する研究成果は，産業動物獣医学の振興に著しく寄与するとともに，繁殖障害の新しい診断・治療法の普及にも大きく貢献した．同氏は日本産業動物獣医学会会長として同学会運営に貢献され，獣医学術功労賞の授与がふさわしいと判断した。

#### 【小動物部門】

##### 獣医学術奨励賞：

「犬の卵巣子宮摘出術におけるマロピタントによるイソフルラン要求量の減少及び嘔吐抑制効果」

岡野公禎（おかの動物病院・横浜市），他

〈選考理由〉 本研究は，NK1 受容体拮抗作用のあるマロピタントが鎮痛効果を発揮して麻酔薬要求量を減少させることを，対照群と比較しながら検証したものであり，研究の方法と考察に科学的一貫性が認められ高く評価できる．マロピタントのセボフルラン要求量の減少効果については既報があるものの，実際の避妊手術例で検証した研究はなく，臨床的に情報提供も十分であり，獣医学術奨励賞として推薦する。

##### 獣医学術学会賞：

「臨床現場における犬の TAT 測定の有用性の検討」

福岡 玲（安田動物病院・兵庫県），他

〈選考理由〉 播種性血管内凝固症候群（DIC）は，種々原因によって全身の細小血管内に汎発性の血栓形成を

生じることで臓器不全をきたすため、きわめて危険な病態であり、早期診断法の確立が強く求められている。本研究は、犬のトロンビン／アンチトロンビンⅢ複合体（TAT）濃度が人医療の汎用型測定機器を用いて院内で測定できる可能性を示し、実際の症例に応用してDIC予備状態の検出や治療のモニター項目として有効であることを示したものである。科学的論理性も備えた発表であり、学術的に高く評価されることから、獣医学術学会賞にふさわしい研究として推薦する。

#### 獣医学術功労賞：

##### 「小型犬およびトイ犬の開心術ならびに僧帽弁形成術」

金本 勇（茶屋ヶ坂動物病院・院長）

〈選考理由〉 金本 勇氏は心臓外科をライフワークとして研鑽を積み、特に「小型犬の開心術」と「僧帽弁閉鎖不全症の外科的治療法」の研究は国内外で高い評価を受けてきた。また、獣医界において昭和の時代から長く業績を重ねられてきたほか、さらに名古屋市獣医師会の監事4期を務められるなど、獣医師会活動にも多大な貢献をされたことから、同氏への獣医学術功労賞の授与はふさわしいと判断した。

#### 【公衆衛生部門】

#### 獣医学術奨励賞：

##### 「山口県内で飼養される子牛の口腔内における志賀毒素産生性大腸菌の保有状況」

亀山光博（山口県環境保健センター保健科学部）、他

〈選考理由〉 近年、動物のふれあいイベントや搾乳体験などにより志賀毒素産生大腸菌（STEC）の感染事例が発生し、多くは、STECを保菌する牛からの感染であるが、口腔内の保菌状況や保菌に至る経路を検討した研究はきわめて少ない。本論文は、山口県内の農場で飼養される186頭の子牛の口腔内におけるSTEC



平成27年度日本獣医師会獣医学術賞協賛各社

左から、小倉憲夫氏（日本全業工業株式会社 常務取締役）、酒井健夫（公社日本獣医師会副会長）、藏内勇夫（公社日本獣医師会会長）、萩原 誠氏（共立製薬株式会社 常務取締役）、藤原寛英氏（日本ハム株式会社 中央研究所 所長）

の保有状況を検討し、分離株の血清型、遺伝子性状、薬剤感受性などを解析した。農場内で由来の同じ株が水平伝播した可能性を明らかにしたことから、獣医学術奨励賞に推薦する。

#### 獣医学術学会賞：

##### 「リケッチア感染症（つつが虫病、紅斑熱）の迅速検査体系の構築」

川森文彦（静岡県環境衛生科学研究所）、他

〈選考理由〉 わが国では、毎年数百名のつつが虫病と日本紅斑熱の患者が発生しているが、両疾病は感染初期であればテトラサイクリン系の抗生物質が著効を示すので、その迅速診断が重要である。現在、ツツガムシ病の診断にはnested PCRが、日本紅斑熱の診断にはsingle PCRが用いられているが、それぞれ操作が煩雑で診断までに長時間を要すること、また、検出感度が低いことが問題とされている。本研究は、マルチプレックスリアルタイムPCR法とリケッチアの型別を行うためのone-tube nested PCR法を開発し、この2つの検査系を評価したものであり、両疾患の迅速・鑑別診断をする上で非常に有効であることから、獣医学術学会賞にふさわしい研究として推薦する。

#### 獣医学術功労賞：

##### 「環境・食品汚染化学物質の毒性発現機序解明と毒性評価に関する研究」

諏佐信行（北里大学・名誉教授）

〈選考理由〉 諏佐信行氏は、長年にわたって環境・食品汚染化学物質の毒性発現機序の研究に取り組み、毒性評価を獣医学的視点から実施するとともに実験動物の使用数を減少させるための代替法の開発、健康影響における酸化ストレスの重要性に関する先駆的研究を行ってきた。これらは獣医公衆衛生学領域における学術的貢献は多大である。また、日本獣医公衆衛生学会理事、東北地区学会会長等、獣医師会の活動にも貢献し、獣医学術功労賞を授与するにふさわしいと判断した。



平成27年度日本獣医師会獣医学術賞受賞者

左から、草場信之、佐々木恒弥、中尾敏彦、岡野公禎、福岡 玲、金本 勇、亀山光博、川森文彦、諏佐信行の各氏